



颯田

奨学通信

第3巻 43号
平成28年6月18日発行
15号
公益財団法人 颯田医学奨学会
〒113-0034 東京都
文京区湯島4-11-16-412



鎌倉円覚寺の三門

- ・医療における「自然法的自由と社会的責務」について 古 田 直 樹
- ・エッセーコーナー 「流行歌と流行歌手」 颯 田 琴 次
- ・昨年10月の集いの講演：「人工内耳手術によって克服された先天性難聴と後天性難聴」 加 我 君 孝
- ・3月の集いの講演： 「癌原因遺伝子の数理」 河 村 隆
- ・颯田40周年を盛り上げましょう 後 藤 昭
- ・創立40周年記念事業について 事 務 局
- ・熊本地震を被災して(現地報告) 村 上 茂 樹
- ・財団の財政基盤の状況説明とご寄附について 事 務 局
- ・颯田奨学生（H24年～28年度採用）颯田医学奨学会役員名簿 事 務 局

公益財団法人 颯田医学奨学会

熊本地震を被災して

医療法人 湘悠会 むらかみ眼科クリニック

村上 茂樹 (順天堂大卒 颯田クラブ)



この度、熊本地震に見舞われた皆様方に対して心よりお見舞い申し上げます。

颯田クラブの会員である村上 茂樹先生は母校の順天堂大学で客員教授をされる傍ら熊本で眼科クリニックを開業されており、被災された中、幸い診療が続けられるとのことで地元の方々に対して日頃より一層のご努力で診療を続けておられます。そのようなご多忙な生活の中で、5月初旬に颯田医学奨学会の事務局に対して以下のような心温まる現況報告の返信メールを頂きました。今回、村上先生のご了承を得てその内容を以下の掲載し、颯田クラブの皆様方に広くお伝えすることと致しました。 清水事務局長。

拝啓

平素よりお世話になり深謝申し上げます。この度は、当地での震災の件で大変ご心配をかけ、また、温かいお心遣いやご連絡も頂き深謝申し上げます。

お蔭様をもちまして、当院におきましては、4月14日(木)夜9時半のM6.5の前震さらに4月16日(土)未明のM7.3の本震とその後の度重なる千回以上にも及ぶ余震と大雨にも耐えて無事に乗り越え、奇跡的に建物も無事でほぼ損傷なく、また、院内の医療機器及び手術及び各種レーザー治療器及び検査機器もほぼ損傷なく正常に作動し、お蔭様でほぼ平常通りの診療と手術を継続させて頂いておりますのでご報告申し上げます。

4月16日(土)の本震の日のみ、平成8年6月から開業20年にして初めて臨時休診体制を取り、同日と翌日に職員総出で院内の散乱した書類等の整備を行い、18日(月)より朝6時前から診察をお待ちになる患者様をお迎え入れし、診療と小手術等を早速始め、今週より予定手術も開始致し、無事実施しております。

お蔭様で、心配された余震も少しずつその強さや頻度も確実に低下している傾向があり、外部にはまだ厳しい見解もありますが、当事者としては少しでも早い収束を地域の皆が願っている次第です。しかし、地域医療面においても、全科的にも当地に隣接する熊本市の基幹病院である熊本市市民病院及びくまもと森都病院(NTT西日本九州病院)と熊本地域医療センターが建物の構造的損傷により、数年単位の長期で使

用不可となり、ご存知の

通り、地域医療面でも憂慮すべき状況となっております。また、当科的には、当院のある宇土・宇城地域は、その地域と周辺人口を含め約13万人で、20年前に開業した当院の他に、それ以前からの手術を実施しない眼科の2施設のみであり、その内1施設と近隣にある2施設の眼科が医療機器の激しい損傷の為、診療は継続されているものの診療の著しい縮小を余儀なくされている状況となっております。

このような状況を鑑み、5年前仙台での大震災を経験された佐渡一成先生(順天堂S61年卒でラグビー部OB・東北大学眼科臨床教授)より早々にお見舞いとお助言を頂き、「どの様な形であっても出来る限りの範囲内でまずは診療を開始し継続することが地域医療を守るために最も大切である」

というご助言を身をもって実感し、それを座右の銘として日々診療と手術に精進しています。

これまで、自分は東京・井上眼科病院で故・井上治郎先生(元日本眼科医会会長)の手厚い薫陶を受け、部長を務めさせて頂きながら順天堂でも衛生学教室の稲葉裕教授先生の下で眼科疫学研究での学位も頂き、その後、熊本市の総合病院の眼科部長職を経て、地元の皆様のご協力も頂き、20年前に当地に個人開業致しましたが、自分の様な医師でも地域の多くの患者様の診療と手術を日々行わせて頂き、良いスタッフの方々にも支えられ、度重なる医療改悪の厳しい波を乗り越えながらも毎年業績の向上を続けることができ、多くの方々に感謝しています。しかも、この地域の方々には診療に対する熱意と誠意が通じ易く、情の厚い方々が多い地域性もあり、これまで20年間の開業医生活で医事紛争も幸い1例も経験せず、それ以前の示談さえも皆無で、多くの患者様との心の触れあいを大切にしながら日々笑顔で診療を続けて参りました。

このような大変な状況においても支援して頂ける多くの患者様と震災後には家の被災により夜は車中泊など大変な状況の中でも医院を支えてくれている職員の方々に心から感謝しています。このため、当院では賞与の支給も毎年3月末と6月末、そして8月のお盆と12月の年末の合計40回の賞与を今年も支給し、かつ、勤務者全

員に5月の雇用契約の更新でも昇給とすることを約束しています。さらにまた、今春から長崎大学医学部附属病院で研修中の長女と福岡大学医学部2年の次女も自分の状況を少なからず気遣ってくれている様で嬉しく思っています。自分を反面教師として育ち、この父親にして、とても良く出来過ぎた娘2人の応援も私の心の支えになっています。

この様に、厚い信頼と熱い支持を頂いている多くの患者様や献身的に医院と私を支えて頂いている職員や取引業者の方々、お世話になっている多くの皆様、そして、家族の熱い心遣いを自分の心身のエネルギーとしながら、これからもマラソンに例えれば折り返しの今後20年を平常心で診療と手術に日々精進して参る所存です。そして、この震災の外部からの冷たい批評や評論さえもエネルギーとして、この土地で永く診療を継続することで自分の生き方の正しさを今後証明していきたいと考えています。

また、震災時には私自身の健康管理にも多くの方々からの気遣いを頂きましたが、本震のあったさすがの16日以外は朝夜の走り込みと体幹の補強運動を行い、ウエストもかなり絞れ、競技生活時のベスト体重をほぼ維持して声も響きを増しています。また、普段より少し早めに就寝する様に努めながら体調管理と免疫力の向上を図っています。

今後は、この大変な震災をずっと辛抱して乗り越えてきてくれた職員と医院の建物と医療機器と

共に、もう暫く辛抱を続けながらこの厳しい状況を皆と笑顔で乗り越え、順天堂大学客員教授としての6月14日の特別講義と毎年の個人寄付に加え、昨冬の神戸での日本臨床スポーツ医学会で講演した世界初となるスポーツ選手におけるドライアイの調査研究報告を英語論文文化して、海外の医学雑誌に順天堂より世界に発信し、微力ながら順天堂への恩返しをさせて頂く所存です。

この様な経緯から、今後共大変お世話になり、ご教示とご助言を頂くことも多いかと存じますが、何卒宜しくご指導とご高配の程お願い申し上げます。

末筆ながら、時候柄、皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。 敬具

平成28年5月2日



被災した宇土市の老人福祉センター